

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・冷夏による米作、農産物の不作が今後マイナス要因に働くと予想されるが、消費者心理は不景気に対する抵抗感が薄れてきている。さらに、地域としては、地元百貨店の改装効果と大手百貨店の閉店に伴う顧客流動の変化により、当商店街への安定した来訪者の増加が見込まれる。
		百貨店（売場主任）	・いわゆる株価の上昇が客との一つの話題になり、今回株価が1万1千円を越えたところで、景気が良いのでということ客の財布のひもが緩まることが分かった。
		百貨店（販売促進担当）	・顧客のニーズにおいて、より個人としてのこだわりが深くなっている。オーダーの手袋・ブーツなど、価格とこだわりへの満足が得られれば、まだ新たな需要の目を見いだすことは可能である。
		家電量販店（店長）	・パソコンのリサイクル制度のスタートにより若干パソコンの買い控えはあるかもしれないが、薄型テレビが好調に伸びており、歳末商戦では確実に家電は景気回復する。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車も投入されているので、来客数が多くなる。
		旅行代理店（従業員）	・ハワイへのチャーター便の運行も決定し、海外旅行の回復傾向がより鮮明になりつつある。
		通信会社（企画担当）	・通信費は以前から低減傾向にあり、今後も各社が競争しながらこの傾向は続いていく。携帯電話はビジネスには必需品であり、一層の競争激化は免れないものの、こうしたコスト低下によって当面の販売増は続く。
		観光名所（職員）	・昨年と比較して来客数が増える傾向にあり、この傾向がこのまま続く。
変わらない		スーパー（店長）	・冷夏や台風被害、稲作不良、十勝沖地震と明るい話が出てこない状況であり、期待感が持てない。
		コンビニ（エリア担当）	・買上点数が減り、かつ単価も減少しているため、この先の予約商品などの売上に効果の大きい商品の販売が見込めない可能性が高い。
		住関連専門店（経営者）	・商店街全体の状況が非常に悪く、最近では閉店廃業する店舗が相次いでいることから、客の商店街離れが起きそうである。
		住関連専門店（営業担当）	・客は特売チラシの目玉商品には飛びつくが、年収減などの世相を反映して単価の高い商品やセットでのまとめ買いがみられない。
		高級レストラン（スタッフ）	・十勝沖地震の余震が続くなか、風評による利用低下が予想され、苦戦を強いられる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ここ2、3年、アルコール飲料の売上が減少しており、追加オーダーによる単価アップが見込めない状況が続く。
		スナック（経営者）	・十勝沖地震の影響で、住宅や道路などに被害が出ているため、関連業者は復旧作業に追われ忙しくなる。このため、飲食業も少なからず、人の出入りが増えそうである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・宿泊人数、単価とも前年を下回っているなか、観楓会に期待をしたいが、予約が間近になってから入ってくる傾向が強くなってきており、予約状況も天候にかなり左右される。
		旅行代理店（従業員）	・国内旅行は現在の基調を維持するものと期待している。しかしながら、海外旅行は現段階で回復する要因が考えられない。
		タクシー運転手	・株価は上がってきているが、北海道では冷夏の影響が農作物に出ていることから、景気がますます悪くなり、消費がなかなか回復しないように思う。タクシーの利用も天候に左右される面が大きいですが、消費が回復しないと夜間の利用が増えてこないと思われる。
美容室（経営者）	・台風や農作物の凶作、十勝沖地震等の災害のため、今後も状況は良くならないと考える。		
やや悪くなる		一般小売店〔土産〕（店員）	・団体客の動きを見ても不景気のマインドが強く、今後、かなり客が減るといった情報も入っている。また、SARSの再発という噂もあるので、そのあたりの動きにも注意したい。
		百貨店（売場主任）	・高額品や重衣料の動きが非常に鈍く、単価も低下しているため、今後についても厳しい。

		スーパー（企画担当）	・同業各社の中間決算の状況は極めて悪く、企業体力を超えた販促合戦など、今年の年末商戦も相当厳しくなることが予想される。今年から来年にかけて企業破綻や倒産が続出する可能性もある。
		衣料品専門店（店長）	・今年は11月に選挙があるということであるが、選挙のある時期はあまり良くないので、今までよりも客は落ち着かなくなり、景気もやや悪くなる。
		家電量販店（地区統括部）	・冷夏による農作物の不作、十勝沖地震による被災状況がひどいため、北海道経済全般に影響を及ぼしてくる。
		高級レストラン（スタッフ）	・例年、客足が遠のく9～11月は食材フェアを開催して好評を得ていたが、今月の様子では、多少の催事で売上が好転するとは見込めない。
		一般レストラン（スタッフ）	・外食については客のニーズが多様化しているが、変化のスピードが速いため、店のコンセプトを客に合わせられず、そのスピードについていけない状況が続く。
		観光型ホテル（経営者）	・選挙のある年は、この業界の業績は芳しくないと言われる。SARS問題後のアジアからの客がどのくらい期待できるかで変わってくる。地元客は、冷夏と十勝沖地震の影響で動きが悪くなる予想もある。この業種は、季節がはっきりしていることが、景気を左右するため、今年は降雪・結氷が早そうなので期待している。
		観光型ホテル（経営者）	・8月時点での9、10月の予約状況は前年に比べてそれなりの水準で良かったが、9月はふたを開けてみると、前半は良かったものの、後半は伸び悩み、トータルして悪くなっている。この流れが今後も続くとなると、当日予約あるいは当日直前の予約数がそれほど伸びないのではないかと思われ、悪くなるだろうと判断している。
	悪くなる	スーパー（店長）	・今後、気温の低下に伴い商品動向も活発化するものと予測できるが、買上点数の減少と単価の下落が影響し、厳しい環境が継続すると予測される。
		コンビニ（エリア担当）	・今月の下旬から急に売上が低下している。冷夏の影響等もあるかもしれないが、それ以外に要因が分からないので、これから先、更に状況が悪化する。
		コンビニ（エリア担当）	・公共投資の減少が、幹線沿いの店舗の来客数と単価の減少につながっている。この影響は今後も継続し、年末にかけて、更に大きく影響してくる。
		コンビニ（店長）	・昨年の同時期は競合店1件だけで営業していたが、今年の5月に競合店が1店増え、更に11月にも1店増えるため、4店舗が競合することになり、来客数が更に減少することが間違いなく予測される。
		高級レストラン（経営者）	・年間を通して、10、11月は非常に良くない月なので消費もかなり落ち込むが、依然としてデフレ経済が続いているため、更に悪くなる。
		スナック（経営者）	・これから選挙運動が少しずつ目立ってくると思われるので、景気が回復するというよりも、逆に低迷する。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（経営者）	・食品の最大需要期であるお歳暮時期を迎える。法人の年末ギフト需要は惨たんたる状況であるが、個人の需要はほとんど変わっておらず、そのなかでも産直品の需要は一層高くなっている。
		家具製造業（経営者）	・個人の消費動向に一番敏感な百貨店での売上が改善傾向にある。
		通信業（営業担当）	・全体としては変わりはないと思っているが、運送業など、特定の業界で前向きな設備投資を行っているところが多くみられ、業績もある程度上向いている模様である。
		その他サービス業[システムハウス]（経営者）	・条件は厳しくなっているものの、受注量は増えてきている。ただし、受注量については一時的なものなのか、本当に回復に向かっているのかが見極められない面がある。
	変わらない	金属製品製造業（統括）	・住宅の着工棟数が落ち込んできており、大型物件についても建築設備業界全体で価格競争が激しく、良い状況がみえないため、今後も変わらない。
		輸送業（支店長）	・現在、生まれつつある新たな商材の納期時期については来年度以降になると思われ、今年度中は現在の景況が続く。ただし、農作物の不作については、実体は新聞発表以上と想定され、物流へのマイナス効果が懸念される。
		金融業（企画担当）	・雇用、賃金とも抑制している企業が多く、年末商戦などの消費が期待できない。

	やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・十勝沖地震の被災により、物流機能の回復に時間がかかる。
		その他非製造業〔機械卸売〕（従業員）	・鉄骨や建築金物については、11月分の仕事は確保できているが、12月分以降は状況が見えていない。また、加工単価は相変わらず安値のまま、経営圧迫要因になっている。
	悪くなる	建設業（経営者）	・公共工事については発注がほぼ終わり、新規の受注が見込めない。既に受注している分についても完了する物件が出てくるため、稼働量が落ち込む。民間工事についても受注の減少と競争による単価の下落で、売上、収益面ともに非常に厳しい。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	・求人件数が増えているのは、全ての業種に渡っているわけではなく、限られた業種だけなので、このまま景気が上向くとは考えにくい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・広告件数の増加はみられるものの、正社員の求人が少なく、雇用形態に不安を抱えたままであり、まだ上滑りの状況だと考えられる。ほんの些細な要因ですぐ冷え込む可能性もあると考えられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気による求人数の変動というよりは、サービス業の増加、建設業の衰退といった構造的変化の要素が大きく、何とも言えない状態である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・十勝の基幹産業である農業は小麦や馬鈴薯はまずまずの収穫であったが、豆類は不作になりそうである。また、WTOの交渉次第で来年以降の営農に大きな影響をもたらすのではないかと加えて、土建業界も吸収合併による統合・倒産が多くなると予測され、求人数の増加が見込めない。
		職業安定所（職員）	・大手企業の函館工場、営業所が合理化等により撤退する一方で、新規開業の企業もみられるため、全体としては変わらない。
やや悪くなる			
悪くなる			